５．明治２８年３月７日相浦紀道宛て谷干城書簡

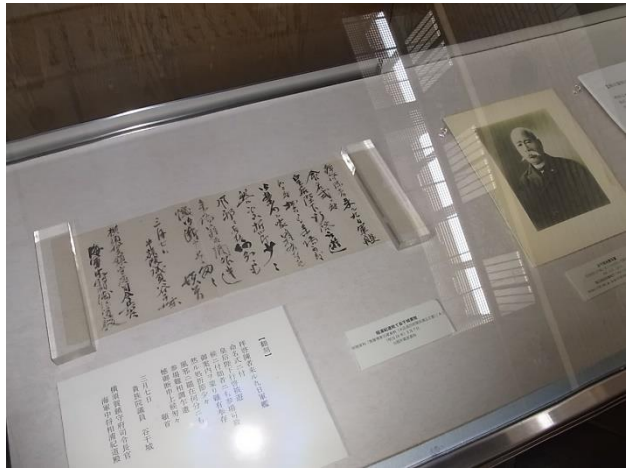
今回の展示資料は、明治２８年（１８９５）３月７日に谷干城が相浦紀道に宛てた書簡である。

皇后（後の昭憲皇太后）が行啓する軍艦の命名式を風邪により欠席する旨を伝える内容になっている。「軍艦」とは、巡洋艦「須磨」のことである。軍艦の命名を実施してから、進水が行われる手順であった。

本書簡は、平成２４年（２０１２）に川崎市公文書館に寄贈された『齊藤博家旧蔵資料（水品貞四郎関係遺品文書）』のうちの一点である。ちなみに、複製古文書（整理番号：B-2-1）としても閲覧可能である。

＜参考文献＞

齊藤博編『祖父・水品貞四郎遺品集成』（２０１２年）
小林和幸『谷干城　憂国の明治人』（中央公論新社、２０１１年）



展示風景（川崎市公文書館）

若き日の谷干城

出典：近代日本人の肖像（国立国会図書館）

出典：『幕末明治文化変遷史』

お問い合わせは･･･**川崎市公文書館**　まで
〒211-0051　川崎市中原区宮内４－１－１
電　話　044-733-3933　ＦＡＸ．044-733-2400
E-mail　17koubun@city.kawasaki.jp
ホームページ　「川崎市公文書館」で検索

川崎市公文書館所蔵資料から見る明治日本
～相浦紀道宛て谷干城書簡を読む～

谷干城肖像写真

出典：近代日本人の肖像（国立国会図書館）

出典：近世名士写真頒布会『近世名士写真　其２』（１９３５年）

＊　＊　＊　＊　＊

川崎市公文書館が所蔵している寄贈資料等の紹介を行なう展示コーナーを設置します。当館では、主に歴史的公文書の展示を中心に行なっていますが、その他にも市民の方から寄贈・寄託頂いた資料を含め、多様な史料を所蔵しています。今回は寄贈資料『斎藤博家文書』の中にある「相浦紀道宛て谷干城書簡」の展示を行ないます。

令和５年(2023)２月１５日
川崎市公文書館

１．幕末から維新へ～激動の変革期～

嘉永６年（１８５３）、ペリー来航によって人々が西洋の軍事力を目のあたりにした時、「幕末」は始まった。

欧米列強と如何にして対峙するかという至上の課題を突き付けられた日本は、外交の在り方や徳川政権を中心とする政治体制からの再編成を模索することになる。その精神的支柱になったのが天皇の存在であった。当初の孝明天皇は通商条約を容認しなかった。そのため、通商条約の締結を推し進めた欧米列強は敵として「尊王攘夷」の名のもとに打ち払われる対象とされた。

しかし、慶応元年（１８６５）に孝明天皇が通商条約を容認したことでこの問題は落着する。

一方で、日本の政治体制についても大きく揺れ動いた。「征夷大将軍」であるはずの徳川将軍は欧米列強と通商条約の締結に踏み切ったことで、「尊王攘夷」を主張する人々から批判を受ける。最終的に徳川政権（幕府）は大政奉還を行ない、天皇を拠り所とする新政府が成立したが、戊辰戦争の開戦によって徳川宗家は朝敵となり、新政府から征討の対象とされた。

こうして日本の主権は徳川政権から天皇政権（明治政府）へ移行したのである。

２．「明治」という時代

明治時代は日本が欧米列強並みの国力と軍事力を蓄え、「一等国」と見做されることを求めた時代であった。

明治政府の基盤固めは混乱のなかで模索される。廃藩置県の断行などによって中央集権化が進められたものの、明治６年（１８７３）の征韓論争・政府分裂を機に士族反乱が勃発することになった。西南戦争の終結によって抑えられたが、自由民権運動の隆盛で国会開設・憲法制定が強く求められた。こうした影響を受けながら、立憲政治の構築は政府主導によって行われた。

欧米列強との関係では、幕末に構築された治外法権の撤廃と関税自主権の回復に主眼が置かれ、日本の最優先課題であった。これらの課題は明治期で解決された。ロシアとの対外戦争（日露戦争）は名目上では日本が勝利を得るかたちとなった。

東アジアとの関係は、まさに葛藤と対立の連続であった。特に日本・清・朝鮮の三国の関係性は複雑な様相を呈した。清国とは台湾や朝鮮国をめぐって対立を生じ、日清戦争では日本が勝利して東アジアへ進出していく画期となった。また、朝鮮国は「大韓帝国」として独立後の明治４３年（１９１０）に日本による韓国併合が行われた。

「明治」という時代は、日本が内治整備・領土拡張を果たしていった時代と言える。

３．谷干城の生涯

谷干城は天保８年（１８３７）に土佐国の学者の家に生まれた。幕末には「尊王攘夷」を主張する。慶応３年（１８６７）には上海視察に旅立ち、帰国後は板垣退助らと共に徳川政権の打倒（「討幕」）を目指した。戊辰戦争では土佐藩兵を率いて各地を転戦して軍功を挙げた。明治１０年（１８７７）、西南戦争では熊本城に籠城して薩摩軍を食い止め、政府の勝利に貢献した。その後、学習院院長などを務め、内閣制が成立した第一次伊藤博文内閣では農商務大臣に就任した。明治４４年（１９１１）、死去。

４．相浦紀道の生涯

佐賀藩士。藩校の弘道館で学び、佐賀海軍として戊辰戦争に参戦した。
明治５年（１８７２）に海軍中佐に昇進。
明治１０年（１８７７）の西南戦争では軍艦「日進」に乗艦して薩摩軍を艦砲射撃することで官軍の上陸作戦を援護。明治１２年（１８７９）に軍艦「筑波」艦長、明治１４年（１８８１）に軍艦「金剛」艦長となり海軍少将に昇進する。明治２６年（１８９３）、佐世保鎮守府司令長官となる。明治２８年（１８９５）、海軍中将に昇進して横須賀鎮守府司令長官に任ぜられる。